

## 【指導事例7】「国語総合」「読むこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導（批評文）

### 1 「国語総合」「読むこと」の指導事項と言語活動例

（「指導事例6」参照）

### 2 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について批評する文章を書く言語活動を通じた指導

#### (1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「読むこと」の領域における指導事項から設定した15事項に「言語活動例エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること」を組み合わせたものが、【資料1】の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。なお、言語活動例では「感想を述べること」と「批評する文章を書くこと」という2種類の言語活動が例示されているが、ここでは単元を通して「批評文」を執筆して交流するという柱を設定し、その過程において「感想を述べる」学習活動を設定している。

指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、批評文の執筆という言語活動においても、それぞれの過程に対応した指導を実施することが可能であり、【資料1】における評価規準の設定例では、15項目中14項目について設定例を記載した。

実際の指導に際しては、年間の指導と評価の計画の見通しによって重点化して取り上げる。例えばこの単元において重点化を想定していない項目であっても、生徒の学習状況などによっては、具体的な評価規準を設け、重点化することも可能である。

例とした単元は、「国語総合」のまとめの時期を想定し、これまでに授業で学習した教材をきっかけに幅広い読書へと発展させようとする構想によっている。そのため、興味をもった内容に関連する他の作品を探す方法や作品相互を関連付けて考えを形成することに重点を置いている。比較対象とする教材、人物を複数設定して選択させていることも同様に、生徒自身の関心に沿って読書の幅を広げさせることを狙いとしているためである。

生涯を通して自らの考えを豊かにするための読書習慣の形成を狙いとした指導事項であり、複数のテーマから選択した内容について、様々な方法で関連する資料や作品を収集する方法について指導し、得た情報に基づいて考えた事柄を批評文としてまとめさせ、作品集としてまとめさせることで成果に満足感を覚えさせることも重視したい。また、比較にふさわしい作品を確実に入手させるために、学校図書館だけでなく、公共図書館のレファレンスサービスを利用させたり、書籍検索のための資料活用方法や、ウェブサイト上の資料検索方法などについても具体的に例示したりし、今後同様の課題意識を抱いた際にも実践できるようにさせたい。

なお、このように広く情報を求めて活用させることについて指導する際には、上述のような指導の手だてを講じた上で、活用しやすい資料を指導者が複数用意しておき、必要に応じて提供できるように配慮し、資料検索や入手の状況によって学習活動に著しい不都合が生じることがないようにすることも必要である。

#### (2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。

まず、高等学校1年「国語総合」のまとめの段階における単元とすること。

次に、対応する指導事項は、「指導事項エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること」「指導事項オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること」を設定すること。その際、実際に本や文章を探して情報を得させるためには、授業時間内だけでなく課題提示から期間をおいて学習を継続することが望ましいため、冬の長期休業の前後に実施することも効果的である。

また、上記の指導事項を、言語活動例エにある「様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の点を考えて教材を選定するが、まず「幅広く本や文章を読み、情報を得て用い」ることについて指導するためには、論理的な文章を用いて、必要に応じて情報を整理することによって自分自身の感じ方、考え方を豊かにする学習と、文学的な文章を教材として用い、他の様々な文章に表現されたものの感じ方や考え方と比較することで、自分自身の感じ方、考え方を豊かにする学習とを想定することができる。この単元においては、後者の学習を設定し、現代文、古文、漢文それぞれの教材からその主たる登場人物が時代やジャンルの異なる他作品にも登場する作品を1作品ずつ選んで教材とすることで、関連する本や文章を幅広く求めるきっかけとさせることを意図する。

教材 『精選国語総合 改訂版 現代文編・古典編』筑摩書房
小説一 「羅生門」芥川龍之介
古文入門 「絵仏師良秀」(『宇治拾遺物語』)
史伝 「刺客荊軻」(『十八史略』)

それぞれの教材を扱った単元において、人物像の際だった「下人」「良秀」「荊軻」の人物像を表現に即して読み味わい、生徒それぞれの内面には好悪も含め、多様な興味・関心が育まれていよう。

「羅生門」はさかのぼれば、『今昔物語集 卷二十九第十八「羅城門登上層見死人盗人語』があり、後には、同じ作者が盗人を主人公とした『偷盗』がある。「下人」は特定の名前をもつ個人ではないため、どのような作品のだれを「下人」の過去、未来の姿と理解するのも含め、情報選択の幅が広く設定できる教材である。

「絵仏師良秀」は「羅生門」と対照的に、近代小説「地獄変」としてリライトされておりこれと比較して考察を加えることができる教材である。また、他のすべてを犠牲にして一つのことに打ち込むという生き方をした人物として一般化すれば、「良秀」という個人を越えて作品の共通点を設定することもできる。

また、「刺客荊軻」は、教材となっている『十八史略』そのものが、原典となる『史記』の「要約」であるため、さかのぼって比較することもできる。また、『平家物語』『謡曲 咸陽宮』に見られるように、始皇帝に代表される統治者の偉大さを際立たせるエピソードとして扱うというように、視点を変えた日本での享受の様相と比較して考察することもできる。また、『小説十八史略』等をはじめとする歴史小説としてのリライトと比較することで、同一人物が英雄として評価されたり、テロリストとして評価されたりするという人物理解と、それぞれの作品の描写の特徴との関連をも含めて考察し、考えを豊かにすることもできる。

いずれの作品も、比較のための資料を該当の単元で指導者が紹介していたり、図書館のレファレンス資料での検索が容易であったりという要件を満たしており、さらにはウェブサイト上で資料を検索したり、必要に応じて要約や口語訳を入手して資料を選択、理解するための多様な方法を示すことが

できる作品である。また、比較のための作品を絞ることができない生徒にも、比較的短編の作品を指定して考察を促すことができる作品であることも選定の理由である。

以上のような判断から、選定した3作品は設定した指導事項、言語活動に合致した教材であると考ええる。

### (3) 単元の計画

- ・単元名 「気になる人物の過去・その後」から考える
- ・教材 「羅生門」芥川龍之介  
「絵仏師良秀」(『宇治拾遺物語』)  
「刺客荊軻」(『十八史略』)  
(『精選国語総合 改訂版 現代文編・古典編』筑摩書房)
- ・単元の目標
  - ・物語の展開に注目し、書き手の「登場人物」を設定の意図や人物評価について考える。
  - ・幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりする。
- ・単元の評価基準
  - (一) 物語の展開に注目し、書き手の「登場人物」設定の意図や人物評価について考えている。(d③)
  - (二) 選択した人物について、時代や書かれた場所が異なる作品を様々な方法で探して読んでいる。(e①)
  - (三) 作品を比較して読むことにより得た情報を整理、評価している。(e②)
  - (四) 作品を比較して読み、批評文を書くことにより、書き手の意図を考え、作品について自分なりの考えをもつようになっている。(e③)
- ・指導計画 全5時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1	・グループ学習によって、既習の教材「羅生門」「絵仏師良秀」「刺客荊軻」の中心となる登場人物を比較し、それぞれの作品においてどのような人物として描かれているかを整理する。	(該当なし)
2 3	・3教材のいずれかを中心とし、古典と近代以降とで共通の素材を用いた文学作品を探して読む。必要に応じて、論理的な文章も加えてもよい。 ・中心となる登場人物の描かれ方や評価がどのように異なるか、両作品の間にどのような関係があるかなどを明らかにするために読む。	・物語の展開に注目し、書き手の「登場人物」設定の意図や人物評価について考えている。(d③) ・時代や書かれた場所が異なる作品を読み、登場人物の描かれ方を中心に、着眼点を設定して比較している。(e①) ・作品を比較して読むことにより得た情報を整理、評価している。(e②)
4 5	・「気になる人物の過去・その後」という共通のテーマで批評文を書く。 ・3教材のうちから選択した「下人」「良秀」「荊軻」のいずれかの人物が、教材以外の作品中でどのように扱われているかを述べ、内容や表現の仕方の異同について、批評する文章を書く。 ・同じ人物を取り上げた作品ごとにまとめた作品集の原稿とする。	・作品を比較して読み、批評文を書くことにより、書き手の意図を考え、作品について自分なりの考えをもつようになっている。(e③)

#### (4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成〇年〇月〇日

二 クラス 第〇学年〇組

(「三 単元」,「四 教材」,「五 単元の目標」,「六 単元の評価規準」,「七 指導計画」,「八 本時の目標」,「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照)

十 本時の指導

・ 5時間中の1時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	・単元の目標理解 ・本時の学習目標理解	①・単元の目標、本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、単元の目標を示す。 ・グループの話合いを通して、既習作品それぞれの代表的な登場人物を比較して、批評文で扱う「気になる人物」を選択することを確認する。 ・「気になる人物」が登場している教材作品以外の作品を探し、両作品における人物の描かれ方や評価がどのように異なるか、両作品の間にもどのような関係があるかなどについて批評文を書くことを知らせる。
展開 (35分)	・既習作品の登場人物を比較する。	②・登場人物の行動を中心に内容を整理する。 ・それぞれの作品の内容を比較する。 ③・3人の登場人物の共通点について話合う。 ④・作品の書かれた時代や作者などについて確認し、人物設定の意図について考える。 ⑤・3人のうち「気になる人物」として、他作品を探して読む対象を各自が決定する。	②・5人程度のグループ活動とする。 ・ワークシートの項目に従って簡潔に整理させる。 <b>【資料2】「気になる人物」決定のためのワークシート</b> ③・整理した内容を抽象化して比較させる。 ・教材中の人物理解は、同じ登場人物について他作品における描かれ方と比較する際に「基準」となるものである。共通点を考えさせることにより、それぞれの人物の特徴を抽象化して具体的に理解させる。
終結 (10分)	・次時の学習内容の確認	⑥・「気になる人物」が登場している教材以外の作品を探して読むための見通しをもつ。	⑥・作品を検索する方法を例示する。 図書館所蔵の登場人物索引や、青空文庫の全文検索機能、教材に関連した書籍など。 青空文庫の検索や、「羅生門」についてキーワードを選んで検索する方法などはプロジェクトを用いて実際に操作して示す。 ・次時までの2週間程度で比較するための資料を用意するように指示する。 ・学校図書館だけでなく、地域の図書館も活用するように指示する。 <b>【資料3】「気になる人物」追跡シート①</b>

・ 5 時間中の 2 ・ 3 時間目

学習 段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標理解</li> <li>・本時の学習目標理解</li> </ul>	①・(2時間目) 単元の目標, 本時の目標と言語活動について確認する。	①・1時間目と2時間目の間には期間を置き, 資料収集ができるように配慮する。 <b>【資料2】「気になる人物」決定のためのワークシート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室, 情報処理室を使用する。</li> <li>・評価の観点を基にして, 単元の目標を示す。</li> <li>・「気になる人物」が登場している教材作品以外の作品を探し, 両作品における人物の描かれ方や評価がどのように異なるか, 両作品の間にもどのような関係があるかなどについて整理し, 批評文を書く準備を確認させる。</li> </ul>
展開 (40分)		②・候補となる文章から比較の対象とする文章を選定して読む。 ・登場人物の行動を中心に内容を整理する。 ・それぞれの作品の内容を比較する。 ③・作品の書かれた時代や作者などについて確認し, 人物設定の意図について考える。	②・比較の対象とする文章を選定させ, 教科書掲載文との異同に注意しつつ各自で読むように指示する。 ・ワークシートの項目ごとに異同を整理させる。 <b>【資料4】「気になる人物」追跡シート②</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を探すことができない生徒には検索方法を確認させるとともに, それぞれの人物の登場する短編作品を複数用意しておく。</li> </ul> ★物語の展開に注目し, 書き手の「登場人物」設定の意図や人物評価について考えているかを学習の観察とワークシートの記載によって評価する。 (d 3) ★時代や書かれた場所が異なる作品を読み, 登場人物の描かれ方を中心に着眼点を設定して比較しているかを学習の観察とワークシートの記載によって評価する。(e ①②)
終結 (5分)		④・(3時間目) 同一人物の登場する複数の作品を読んで考えたことを批評文としてまとめることを確認する。	④・批評文の構想シートを配付する。

【資料1】「具体的な評価規準の設定例（読む能力）」

※下線部は「中間報告」からの修正箇所

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「読む能力」に関する 評価規準の設定例（15項目）	重 点 化	実 施 時 間	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	a① 文学的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		2 3	・小説、随筆、歴史書など、比較する文章のジャンルによる表現の特色を理解して文章を読んでいる。
	a② 論理的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		2 3	・文学的な文章とは異なる、論理的な文章の論点の示し方や、構成を理解して文章を読んでいる。（選択）
	a③ 実用的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。			・該当無し
イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	b① 文脈をとらえ、語句や表現に注意して、書き手の考えなどを過不足無く理解している。		1 2 3	・それぞれの文章を語句や表現に注意して理解し、書き手の人物に対する評価や世界観を理解している。
	b② 読む必要に応じて、文章を要約している。		1 4	・人物の置かれた状況や行動、作品中での描かれ方などを比較するために要約している。
	b③ 読む必要に応じて、文章の一部を詳述している。		4	・人物の行動の意味や結果について考える際に、本文の内容に即して詳述している。
ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	c① 表現に即して、登場人物の、行動や性格、ものの見方、感じ方、考え方、ひいては生き方を的確にとらえて、人物個々の心情の変化や、人物相互の関係の変容を読み取っている。		2 3	・作品それぞれの表現に即して登場人物の行動、性格、価値観や生き方をもの感じ方を理解し、作品中の人間関係を読み取っている。
	c② 情景が、人物の心情の反映や象徴、物事が起こる予兆などとして設定されていることを理解し、表現に即して、人物の言動、置かれている状況を理解する手掛かりとしている。		2 3	・比較のために探して読んだ作品中の情景描写を内容や人物評価の理解の手掛かりとしている。
	c③ 登場人物の心情に思いをいたし、自らの生き方と重ね合わせて共感したり反発したりしている。		1 4	・登場人物の心情に思いをいたし、自らの生き方と重ね合わせて感想をもっている。
エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	d① 文章の組立て等の構成と、考えの進め方や内容の推移等の展開を確かめている。		2 3	・文章の展開を捉え、登場人物の置かれた状況と行動のつながりを理解している。
	d② 文章の内容や表現の仕方について、規準や根拠を明確にして判じている。		4 5	・文章中の人物評価と表現の特色について、根拠を明確にして効果を論じている。
	d③ 段落に注目し、書き手の思考の流れから強調点を読み取り、執筆動機や表現意図を考えている。	○	2 3	・物語の展開に注目し、書き手の「登場人物」設定の意図や人物評価について考えている。
オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	e① 文学的、論理的、実用的文章等幅広い形態の、多様な内容の文章を、様々な方法で探して読んでいる。	○	2 3	・選択した人物について、時代や書かれた場所が異なる作品を様々な方法で探して読んでいる。
	e② 本や文章によって得た情報を選択、評価、加工している。	○	2 3	・作品を比較して読むことにより得た情報を整理、評価している。
	e③ 幅広く本や文章を読み、書き手の意図をとらえ、読み味わうことにより自分なりの考えをもつようになっている。	○	4 5	・作品を比較して読み、批評文を書くことにより、書き手の意図を考え、作品について自分なりの考えをもつようになっている。

【資料2】「気になる人物」決定のためのワークシート（1時間目）

追跡してみたい「気になる人物」は誰だろう			
班 番氏名			
※「羅生門」の下人、「絵仏師良秀」の良秀、「刺客荊軻」の荊軻を比較し、徹底分析することで、最も「気になる人物」を選び、その「気になる人物」が、時代や作品を越えて他の作品の中ではどのように描かれているかを追跡してみよう。			
（1）3人がそれぞれ教材ではどんな人物だったかを整理してみよう。メンバーによって意外に理解や評価が分かれているかもしれない。（⑥⑦はグループで他に挙げた項目を追加。）			
着目点	下人	良秀	荊軻
①時・場所			
②教材中で何をしていた人物か			
③②の行動の理由			
④②の結果			
⑤作品中での評価			
⑥			
⑦			
（2）3人の中には共通点があるだろうか。具体的な行動は全く違っていても、何か相通するものを見つけるために話し合おう。			
下人と良秀			
良秀と荊軻			
荊軻と下人			
（3）3人の中で追跡してみたい「気になる人物」を決定し、教材文ではどのような人物として描かれていたかを整理しておこう。批評のために、人物そのものや、その描かれ方についての自分自身の評価も整理しておこう。追跡を通して変更があっても構わない。			
（人物）	（教材文中での特徴）		
	（評価）		

【資料3】「気になる人物」追跡シート①（2・3時間目）

「 荆軻 」追跡シート① 組 番氏名 （記載例）				
※「気になる人物」が、時代や作品を越えて他の作品の中ではどのように描かれているかを追跡してみよう。 （1）他の登場作品を調べてみよう。この中から選んで読み、同一人物の描かれ方の違いから考えたことを論じよう。				
作品	著者	時代など	検索した方法と入手の見込み	備考
十八史略	曾先之	南宋～元 13・14世紀	教科書掲載	
小説十八史略(1)	陳舜臣	1977	ウィキペディア	○
史記 刺客列伝	司馬遷	前1世紀	ウィキペディア	○ 口語訳あり
平家物語 巻5 咸陽宮	未詳	13世紀	日本古典文学大系索引	○ 口語訳あり
謡曲 咸陽宮	未詳	14世紀	ウェブサイト「荆軻小説の棚」	○ 別のウェブサイト に口語訳有り
始皇帝暗殺	荒俣宏	1998	『歴史・時代小説登場人物索引』	○
始皇帝を撃て	桐谷正	1992	『歴史・時代小説登場人物索引』	○
刺客列伝 「易水去りて」	伴野朗	1992	『歴史・時代小説登場人物索引』	○
荆軻	高陽 著 九月 訳	2011	アマゾン検索	○
荆軻と高漸離	桐谷正	2001	図書館蔵書検索	○

【資料4】「気になる人物」追跡シート②（2・3時間目）

「 」追跡シート② 組 番氏名		
※「気になる人物」が、時代や作品を越えて他の作品の中ではどのように描かれているかを教科書の文章と比較してみよう。 （1）3人を比較した時の項目を参考に、同一人物の描かれ方の違いを整理しよう。		
	教科書『 』	比較作品『 』
①時・場所		
②何をしたか		
③②の理由		
④②の結果		
⑤評価		
⑥		
⑦		